

1 救急の総括

① 活動概要

令和6年中における救急の活動概要は、出動件数が10,288件、搬送件数が9,374件、搬送人員が9,423人である。

前年と比較すると、出動件数が141件(1.4%)の減、搬送件数が41件(0.4%)の減、搬送人員が28人(0.3%)の減となっている。

過去5年間をみると、増加傾向にあり、令和6年は令和5年に続き1万件を超えた。

② 出動状況

出動件数を事故種別ごとに前年と比較すると、件数が増加したのは自損行為の52件、転院搬送の32件、労働災害の28件、火災の21件などで、減少したのは急病、交通などである。

出動件数を時刻別・事故種別でみると、それぞれのピークは、急病で10時～12時、交通事故は16時～18時、一般負傷は10時～12時、転院搬送は12時～14時となっている。

③ 搬送状況

搬送状況を程度別でみると前年比で、軽症が3,515人(567人減)、中等症が5,513人(53人増)、重症が395人(14人減)となっている。

年令区分別でみると、新生児を除く全年齢で急病が最も多くなっている(新生児は転院搬送が最も多くなっている)。

収容医療機関は、管内が5,370人、管外が4,053人で全体の43.0%が、管外の医療機関へ搬送されている。

④ 所要時間

所要時間の平均は、入電から現場到着までが9.6分(前年同)、病院収容までが39.6分(前年比較で0.3分短縮)、総所要時間が76.7分(前年比較で2.8分短縮)となっている。

⑤ 隊員の行った応急処置

搬送人員9,423人のうち9,405人に対し応急処置を実施している(実施率99.8%)。

実施回数が最も多いのは、観察活動の血中酸素飽和度の測定、次いで血圧測定、冷却・その他処置の順となっている。

⑥ 不搬送件数

不搬送件数は全体で914件となっている。不搬送理由は「辞退(到着後)」が最も多く477件、次いで「明らかな死亡」の152件、続いて「拒否」の130件となっている。

⑦ 応急手当の普及啓発活動

令和6年中は、応急手当普及員講習を2回、上級救命講習を1回、普通救命講習を30回及び救命入門コースを119回実施し、合わせて4,804人に対し講習を実施している。

(事故種別の凡例)

- | | |
|-----------|-------------------------------|
| 1. 火 災 | 火災現場において直接火災に起因して生じた事故。 |
| 2. 自然災害 | 暴風・豪雨・高潮・地震等の自然現象に起因する事故。 |
| 3. 水難事故 | 水泳中の溺者又は水中転落等による事故。 |
| 4. 交通事故 | 全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故。 |
| 5. 労働災害 | 各種工場・事業所・作業場等で就業中発生した事故。 |
| 6. 運動競技 | 運動競技の実施中に発生した事故。 |
| 7. 一般負傷 | 他に分類されない不慮の事故。 |
| 8. 加 害 | 故意に他人によって傷害等を加えられた事故。 |
| 9. 自損行為 | 故意に自分自身に傷害を加えた事故。 |
| 10. 急 病 | 疾病によるもの。 |
| 11. 転院搬送 | 医療機関から医療機関への搬送。 |
| 12. そ の 他 | 医師・医療資器材等の搬送及び、その他上記に分類不能のもの。 |